

共催展示

本展示を共催する小坂町、五城目町、横手市が所蔵する貴重な資料を、月替わりで展示します。

10月2日（火）
～11月4日（日）

小坂町立
総合博物館郷土館収蔵

稀覯本を出版したことで知られる小坂町出身の澤田伊四郎に届いた高村光太郎からの書簡をすべて展示します。

11月6日（火）
～12月2日（日）

五城目町教育委員会所蔵

才を惜しまれながら若くして亡くなった矢田津世子に宛てた坂口安吾の書簡をすべて展示します。

12月4日（火）
～12月27日（木）

横手市
雄物川郷土資料館収蔵

昭和20年、横手市出身の画商旭谷正治郎を頼り稲住温泉に疎開した武者小路実篤。旭谷に宛てた実篤の書簡を展示します。

関連文学講座

11月4日（日）午後1時30分～
文学講座

龍星閣に集う文化人と秋田
小坂町立総合博物館郷土館
学芸員 安田隼人氏

12月2日（日）午後1時30分～
文学講座

坂口安吾―矢田津世子との
出会いから「秋田犬訪問記」まで
秋田大学
准教授 山崎義光氏

秋田を訪れた文人たち

高村光太郎 泉鏡花 吉田茂 若山水 武者実篤 小宮篤
坂口安吾 谷崎潤一郎 田山花袋 徳田秋声

秋田には多くの文人が訪れた。たとえば明治27年、小説『蒲団』の田山花袋は、仙岩峠で足をくじき、地元民に助けられた。大正5年、旅と酒を愛する歌人若山水が千秋公園で歌を詠み、料亭で秋田の酒を堪能した。昭和2年、泉鏡花が日本新八景に選ばれた十和田湖へ旅行し、湖を胡桃の実に目に青い露を湛えたようだと書いた。昭和20年、武者小路実篤が戦火を避けて家族とともに稲住温泉に疎開し、ここで8月15日を迎えた。昭和26年には坂口安吾が、昔好きだった婦人が生まれた秋田を訪れ、「秋田犬訪問記」を書いた。なぜ彼らは秋田を訪れたのか。展示では、秋田ゆかりの人物との交流の様子や秋田を描いた作品を紹介する。

あきた文学資料館

共催：小坂町・五城目町・横手市

平成30年10月2日（火）～12月27日（木）

開館時間：午前10時～午後4時

休館日：月曜日

秋田市中通六丁目6-10

TEL：018-884-7760

秋田駅より徒歩10分

入館・聴講とも無料

※聴講希望の方は当館までご連絡ください。